

専門看護師紹介 / 集中ケア認定看護師  
星野 久美子 (ほしの くみこ)

「集中ケア認定看護師って何をする人?」と聞かれて皆さん想像できますか? 私は集中ケア認定看護師を取得し4年目になります。認定の大先輩や同期達に支えてもらいながら、日々患者さんと向き合っています。私が現在勤務するICUの患者さんの多くは、人工呼吸器管理中のため話すことができません。しかし、沢山のサインを送っています。声にならない訴えに耳を傾けなければ、急変の予兆に気付くことはできません。患者さんをよく「見る」、そして救える知識と技術を持つことが大切であり、今は一緒にケアにあたりながらそれを後進に伝えていくことが自分の役割だと考えています。

昨年より当院ICUでもCOVID-19患者さんを受け入れ、今も多職種と協働して、呼吸管理や腹臥位療法の体制構築に尽力しています。ICU入室中の患者さんが1日も早く笑顔で、そして歩いて自宅に帰れる日を思い描いて、今日も奮闘しています。



専門看護師紹介 / 母性看護専門看護師  
小寺 由理 (こでら ゆり)

母性看護専門看護師は周産期を対象とした周産期母子援助と、女性の一生にわたる健康への援助を担っており、全国で81名(2019年12月現在)が活動しています。私は外来と病棟を行き来しながら、複雑な問題を抱え支援が必要な女性と家族が安心して出産育児に臨めるよう多職種と協働して支援を行っています。

少子高齢化が進み家族の在り方が多様化する中、虐待やDVなど母子とその家族を取り巻く環境は大きく変化しています。このような背景から、女性一人ひとりの価値観や意思を尊重した関わりがより一層求められていると感じています。同時に、周産期に限らずその後のライフステージにおける心身の健康保持増進のために、今後も多職種と協働しながら女性のセルフケアを高めるための支援を行っていきたくと考えています。



お知らせ

● 歯科部門診療科が改組されます

4月より歯科部門診療科の改組に伴い、診療予約申込書も変わります。新しい診療予約申込書は完成次第ホームページでご案内いたします。4月以降に歯科部門へ患者さんをご紹介いただく際はご注意ください。

● 第16回東北大学病院 地域医療連携協議会延期のお知らせ

今年度の地域医療連携協議会は、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を鑑み、延期という形を取らせていただくことといたしました。延期後の開催につきましては、日程が決まり次第改めてご案内いたします。

● 総合外科(乳腺外来)は完全予約制になりました

1月より総合外科(乳腺外来)は完全予約制となりました。ご紹介の際には地域医療連携センターにてご予約をお取りいただきますようお願いいたします。  
新患日:月・水・木(完全予約制) 連絡先:022-717-7742(総合外科(乳腺外来))

● 新患日変更のお知らせ

緩和医療科は2月15日より新患日が変更になります。  
新患日:月～金(完全予約制) 連絡先:022-717-7768(緩和医療科外来)

Information

編集後記

今年度は37年ぶりに日付が変わった2月2日の「節分」でしたが、みなさん豆まきしましたか?豆は「魔を滅する(まめ)」に通じ、無病息災を祈る意味があります。豆まきの後は、年の数だけ豆を食べると健康でいられるといわれています。年の数だけ食べられない場合は、福豆3粒に梅干しと塩昆布を加えお湯を注いだ「福茶」を飲むと、食べるのと同じだけご利益があるようです。みなさんにたくさん福がきますように!  
(地域医療連携センター S)

編集/発行

東北大学病院 地域医療連携センター  
TEL: 022-717-7131  
FAX: 022-717-7132  
Eメール: jjik002-thk@umin.ac.jp  
ご意見・ご要望は  
地域医療連携センターまで  
お問合せください。

with

東北大学病院  
地域医療連携センター通信  
[With/ウィズ]

vol.51  
2021年2月12日発行



センター長 小川 浩正 先生  
東北大学病院睡眠医療センターを設置しました

Topics

東北大学病院では、2020年10月に、睡眠医療センターを設置しました。睡眠障害には、不眠症、睡眠時無呼吸症候群を代表とする睡眠関連呼吸障害、概日リズム睡眠障害、睡眠時随伴症、睡眠関連運動障害など、様々なものがあります。そして、睡眠障害は、生活習慣病、心不全、そして緑内障などを悪化させたりします。また、睡眠障害は、小児の成長や学習に、成人の精神神経症状に、高齢者の認知行動などに影響を及ぼしたりします。

したがって、睡眠医療を必要とする患者さんは、小児から成人まで幅広い世代となり、また、様々な疾患を有している方となりますため、これまで、各診療領域で個別に対応してきました。しかし、患者さんが有している睡眠障害の原因が一つではないこ

ともあり、治療に関しましても、患者さんの情報を関連診療領域で共有化することで様々な治療法の選択肢を提供できる可能性があり、各診療領域の高度な専門知識と技術を集約して睡眠障害診療にあたることの方が、睡眠障害を有している患者さんにとり有益であります。

睡眠医療センターは、このような考えに基づきまして、各診療領域で個別に対応してきました睡眠障害診療を連携させ、睡眠障害の検査・治療を包括的に提供する目的で、設置されました。

東北大学病院睡眠医療センターは、内科・外科、そして、東北大学病院が全国でも少ない専門性の高い歯科診療科と歯学部を有する強みを活かしまして、歯科とも協働して、高度な睡眠医療を包括的に提供する拠点

としての役割を果たしてまいります。地域の睡眠医療の中核的機関として、検査そして治療計画の情報提供をおこなわせていただき、当該医療機関と連携して、当該医療機関の睡眠医療のお手伝いをさせていただきたいと思っております。また、東北大学病院は、新しい医療技術の研究・開発を行う研究機関でもありますので、当睡眠医療センターでは、睡眠医療における新しい検査機器の開発・新しい治療法の確立を目指していきます。加えて、教育機関という立場から、睡眠医療専門の医療スタッフの育成そして、各医療機関への輩出にも努めていきます。

睡眠障害管理上困難な患者さんがおりましたら、是非当睡眠医療センターをご利用ください。

新診療科長挨拶 / 総合外科（下部消化管グループ）科長  
大沼 忍（おおぬま しのぶ）

People

2020年7月1日付けで総合外科（下部消化管グループ）科長を拝命致しました大沼 忍と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は1994年に山形大学を卒業し、山形市立病院済生館や東京都立駒込病院等での研修後、2003年に東北大学大学院に進学、米国国立衛生研究所（NIH）留学を経て、2010年より東北大学病院で下部消化管外科の臨床、研究業務に携わって参りました。

当科は、下部消化管領域における良・悪性疾患の外科診療を行っております。

良性疾患では、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患の外科診療に力を入れています。潰瘍性大腸炎では大腸を全摘して、自然排便

が可能な回腸・肛門吻合術を標準としています。クローン病では病変部の狭窄が高度な場合は病変部の切除を行いますが、比較的軽度の場合は狭窄を解除する術式を組み合わせ、可能な限り腸管を温存し短腸症候群のリスク回避に努めています。

悪性疾患では、主に大腸癌を診療しています。大腸癌の約3分の1が肛門に近い直腸に発生する直腸癌であり、直腸癌の診療に際して、根治性を保ちながら肛門機能温存を追求し、腹腔鏡やロボットを用いた低侵襲な治療を積極的に行っています。実際、多くの直腸癌の患者さんが肛門温存を希望し、当科を受診されていることを実感しております。また、進行直腸癌や局所再発例には術前化学・放射線療法後に外科治療を行

ない、肛門温存率や治療成績の向上に努めています。さらに、多くの臨床研究を計画し、我々のグループから世界へ発信できるエビデンスを構築して行こうと考えております。

総合外科、下部消化管グループでは、地域でご活躍されている先生方と緊密な連携をとらせていただき、患者さんにQOLを重視した最善・最適な医療を提供できるように一層の努力を続けていく所存です。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



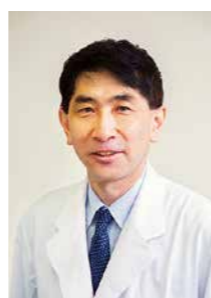
新診療科長挨拶 / 循環器内科 科長  
安田 聡（やすだ さとし）

People

先生方におかれましては、平素より東北大学病院循環器内科の診療に対するご理解ならびにご協力を賜り、誠にありがとうございます。2020年8月1日付けで、東北大学病院循環器内科科長を拝命しました安田 聡（やすだ さとし）と申します。大阪にあります国立循環器病研究センターより異動してまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。循環器内科科長就任に当たり、ご挨拶申し上げます。循環器疾患は我が国の主要な死因の1つです。循環器病の特徴の1つは、軽快と増悪を繰り返しながら進行し、長期に寝たきりになるなど、生活の質が著しく低下することにあります。循環器内科では、心血管病に対する救急治療

から慢性期治療・予防まで質の高い高度医療を提供します。虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）、心不全（弁膜症・心筋症等による）、肺高血圧症、不整脈など、幅広い循環器疾患に対して高度医療を実践するエキスパートが揃っています。成人先天性心疾患や心臓移植・肺移植が必要な患者さんについても受け入れています。冠動脈疾患へのカテーテル治療、構造的な心疾患や重症心不全に対するデバイス治療、不整脈に対するアブレーション治療など、最先端の機器を導入し「患者さんの負担の少ない診断・治療」に積極的に取り組んでいます。これまでに蓄積された経験とデータを活かし循環器内科全体としてトータルマネジメントを、ま

た他部門とも連携して最善の医療を選択・提供いたします。どうぞご相談ならびにご紹介いただけましたら幸いです。当科の診療の詳細につきましては東北大学病院ホームページ（<https://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/d1101/>）と当科ホームページ（<https://www.cardio.med.tohoku.ac.jp/2020/jp/>）を是非ご参照いただけますようお願い申し上げます。



歯科部門紹介 / 総括副院長（歯科診療部門長）五十嵐 薫  
歯科診療部門が4月から変わります！

Dental Department

平素は東北大学病院歯科診療部門に格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大の最中にあっても高度な専門的歯科医療を提供し続けるために、歯科診療部門スタッフ一同が厳格な感染予防対策を講じて診療に当たっています。従来通り、安心して患者さんをご紹介くださるようお願い申し上げます。

さて、医科と歯科が完全に統合してから10年以上が経過したことから、歯科診療部門では診療のさらなる効率化と高度化を図ることを目的とした組織改編に取り組んでいます。4月1日からは、4つの診療科、3つの特殊診療施設、1つの院内共同利用施設の名称や役割が変わります。最も大きな変更として、これまで口腔診断科が1

科で担ってきた業務を整理して3つの部署で分担することとしました。歯科の窓口としての予診業務は「総合歯科診療部」が担い、新患の流れ（検査・診断）をスムーズにして患者さんの利便性を高めます。難治性の口腔粘膜疾患、味覚障害、口腔乾燥症、口腔顔面痛などを訴える患者さんには、新たに設置する「口腔内科・リエゾンセンター」が窓口となり、原因となっている全身疾患など背景因子が疑われる場合には院内他科（医科・歯科）へ橋渡しをいたします。口腔診断科は「顎口腔画像診断科」に名称を変え、最先端のモダリティを用いた顎口腔領域の高度な画像診断を中心とした業務に特化いたします。加えて予防歯科は「口腔支持療法科」へ、保存修復科は歯内療法科と統合して「歯内療法科」へと、

それぞれの専門的歯科診療の実態を反映させた名称が変わります。

特殊診療施設では、感染予防対策治療部が「歯科医療管理部」に改組され、障害者歯科治療部は「障がい者歯科治療部」に名称を変更し、高齢者歯科治療部は廃止されて「口腔機能回復科」に統合されることになりました。院内共同利用施設である周術期口腔支援センターは、院内外における周術期口腔機能管理の需要の高まりに適切に対応するため、専任の歯科医師を配置して「周術期口腔健康管理部」として新たなスタートを切るようになります。

組織改編の詳細につきましては今後様々な形でご案内を差し上げてまいりますので、皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。



イベント  
2020年度 地域連携オープンカンファレンスを開催しました

Event

10月1日（木）Web会議システムZoomを使用して「2020年度東北大学病院地域連携オープンカンファレンス」を開催いたしました。この会は「医療と介護のより良い連携を目指して」をテーマに掲げ、本院の医師、看護師、後方支援に関わる担当者が直接交流することで顔の見える連携を推進し、円滑な転院・退院調整に繋げることを目的として開催しています。第1部を緩和医療科科長の井上彰先生より「早期から緩和ケアってどういうこと？」と題して講演をいただきました。第2部は「コロナ禍における地域医療連携を考えよう」というテーマでグループディスカッションを行いました。参加

者は院外18施設より24名、院内より25名の参加をいただきました。WEB開催の強みを活かして石巻や大河原など普段なかなか交流ができない地域の医療機関の医師とも情報交換することができました。参加者からは講演内容がとてもわかりやすく早期からの緩和ケアのイメージができた。移動時間を考えなくて良いので参加しやすいなどの意見をいただきました。また、次回以降に取り上げて欲しいテーマとして地域医療のIT化、情報漏洩に配慮した電子化の促進や在宅医療に期待したいことなどが挙げられていました。コロナ禍で顔の見える連携も難しい状況ではありますがWEBという新たな

交流の仕方での連携の機会を維持することで、より良いネットワーク構築、学びの機会に繋げていきたいと思っております。

